

被爆直後の生活

原爆により、爆心地から半径2 km以内の区域はほぼ全壊全焼して焼け野原に変わり、金毘羅山に隔てられた中心市街地も爆風や類焼によって多大な損害を被りました。壊滅を免れた市内の救護所には、多数の負傷者が殺到し、混乱を極めました。

その後、生き残った人々は、原爆による被害に加えて、明日をどのように生きていくのか、という新たな問題に直面します。



長崎市内北部上空から爆心地方面を望む

撮影時期 1945(昭和20)年

撮影 H.J.ピーターソン

所蔵 長崎原爆資料館



風頭山上空から長崎市街中央部を望む

撮影時期 1945(昭和20)年

撮影 H.J.ピーターソン

所蔵 長崎原爆資料館